

# Asian Population & Development

アジア

## 人口と開発

ISSN 0911-5684



1989・No.27

財団法人 アジア人口・開発協会 (APDA) 発行

目次

巻頭言

1

タイ経済発展の課題

2

嘉悦女子短期大学専任講師

渡辺真知子

○国際人口問題議員懇談会

バンクラデシユを視察する

8

バンクラデシユ人口事情視察議員に

随行して

アジア人口開発協会事務局次長

青木洋子

APDA・日誌

22

(財)アジア人口・開発協会発足並びに事業経過

23

本協会実施調査報告書及び出版物

# 巻頭言

## コンテナー理論

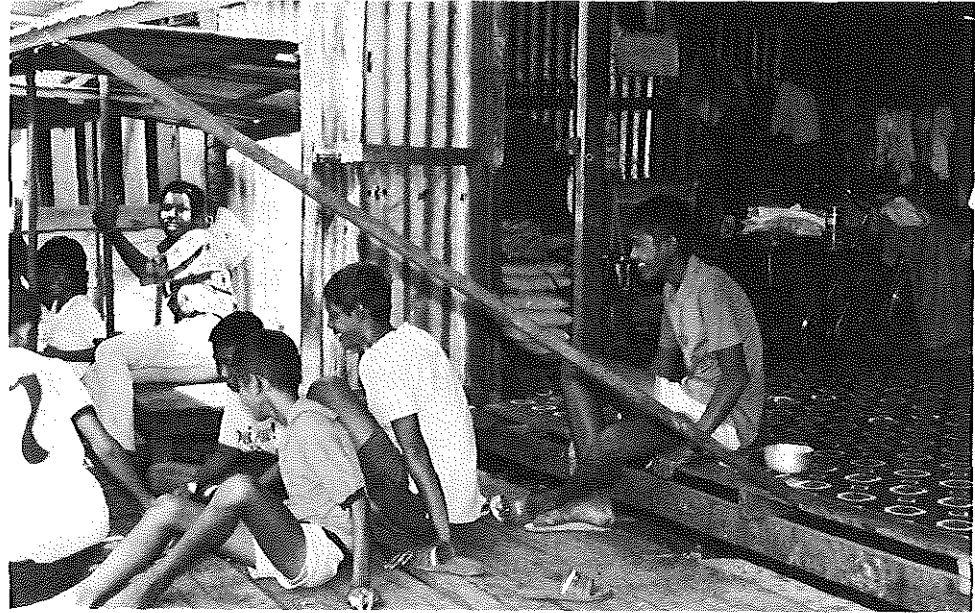
### ——日本家族論——

日本の家族は戦前の直系大家族制度から、戦後には核家族制度へと大きく様変わりしたといわれる。戦前から比較するとなにもかも変わったと錯覚を起こすのも無理はないかも知れない。敗戦、全国的飢餓の状態からいっきよに不死鳥のように世界の経済大国になったのだから。だから、家族形態も当然大変化を起こしているはずである、というわけである。

しかし、統計に関する限り一向にそんな驚くような変化をしているとは思われない。今から約七十年前の大正九年の国勢調査によると、いわゆる核家族世帯が普通世帯全体に占める割合は五十四%であった。そして経済・社会の大変動のあとの今日のそれが六十%そこそこである。わずか六ポイントの増加、十一%の増加率、年率にすればなんと〇・一六%である。家族という容器（コンテナー）はさっぱり変わっていないではないかというのが私の独断である。ある座談会でアメリカの学者はこれを「コンテナー理論」と呼んでくれた。しかし、全くの変化がないのではない。家族の入れものであるコンテナーの周辺と中味に変化がおきつつある。若者の独身貴族的志向の増大とか、家族員の関係が主人を中心とした縦の関係から、主人・妻・子供の対等な横の関係への移行といった新しい変化は生じ始めている。それは新しい社会への家族の対応の息吹きではあるが、コンテナー自体はまだまだ健全であることを忘れてはならない。

（黒田俊夫）

# タイ経済発展の課題



バンコクのスラム地区で陽気に遊ぶ子供達

嘉悦女子短期大学専任講師  
渡辺真知子

タイ経済は、これまで、ASEAN諸国の中で比較的地味な存在であった。しかし、一九八〇年代半ばに他のASEAN諸国が経済成長を鈍化させている中で、タイは、その経済パフォーマンスの良さによって人々の関心を集めている。この一、二年の日本企業のタイ進出ラッシュからこのことが窺えよう。

タイの本格的工業化による近代経済社会への出発は一九六〇年以降のことで、一九五九年の世銀調査団によるタイ経済診断とその勧告に

(100万バツ、%)

産業別国内総生産 (經常価格)

表 1

	1970年	1975年	1980年	1985年
国内総生産	135,939	296,298	684,930	1,041,354
	100.0	100.0	100.0	100.0
農 業	28.5	31.3	25.4	17.1
(作物)	19.8	23.1	19.0	12.2
(その他)	8.7	8.2	6.3	4.9
鉱 業	2.0	1.3	2.1	2.8
製 造 業	15.9	18.1	19.6	20.1
建設	6.1	4.8	5.8	5.2
電気・水道	1.2	1.1	0.9	2.3
運輸・通信	6.3	5.8	6.6	9.1
商業	19.1	18.1	18.8	18.2
銀行	4.1	4.7	6.1	8.2
住宅	2.0	1.5	1.1	1.3
公務	4.5	4.2	4.1	4.5
サービス	10.2	9.0	9.4	11.1

出所：Bank of Thailand

経済も成長率を低下させているが、一九八〇年代前半の五年間に平均五・一%と他の国々と比較すれば堅実な伸びであった(発展途上国平均三・三%、先進工業国平均二・三%)。

この約四半世紀のタイの経済発展過程を見ると、ASEAN諸国の中でもその堅実な歩みに注目することができる。タイは一般に「農業国家」と見られており、事実、農業は生産・雇用・輸出など多くの面でタイ経済の中心的存在である。しかしながら製造業の伸びは目覚ましく、一九七〇年代前半には経済成長に対する製造業の貢献度は農業に追いつき、後半にはそれを上回った。その結果、一九八四年以降、名目額で見れば、製造業の国内総生産に占める割合は農業のそれを上回り、最大の産業となった。表1は、一九七〇年から五年毎に産業構造の変化を見たものであるが、一九七〇年代後半以降、農業が比重を低下させ、製造業が急速に比重を高めていることを示している。すな

わち生産面で見  
る限り、タイは  
着実に「工業国」  
の一員になろう  
としているので  
ある。

さらに、輸出  
面でも「農業か  
ら工業へ」とい  
う傾向を観察す  
ることができる。

一九六〇年から  
八七年現在まで  
の輸出上位一〇  
品目の変化を見  
ると(表2)、こ  
の間の経済発展  
の結果として二  
つの大きな変化  
を指摘できる。  
一つの変化は、  
輸出面での農産  
品と工業品の役  
割の交替である。  
工業品が上位一  
〇品目に登場し

始めるのは一九七〇年代に入ってからのもので、同表の中では一九七  
五年の三位の砂糖と一〇位のセメントが最初である。なお、砂糖の輸

表 2 タイ輸出上位10品目の変遷 (100万バーツ)

順位	1960年	1970年	1975年	1980年	1985年	1987年
1	ゴ ム 2,579	米 2,516	米 5,852	米 19,508	繊維製品 23,578	繊維製品 48,555
2	米 2,570	ゴ ム 2,232	メ イ ズ 5,705	タピオカ 14,887	米 22,524	米 22,730
3	メ イ ズ 551	メ イ ズ 1,969	砂 糖 5,696	ゴ ム 12,351	タピオカ 14,969	タピオカ 20,661
4	錫 537	錫 1,618	タピオカ 4,597	錫 11,347	ゴ ム 13,567	ゴ ム 20,539
5	チーク 356	タピオカ 1,223	ゴ ム 3,474	メ イ ズ 7,299	I C 8,248	I C 15,179
6	タピオカ 288	ジュート 719	錫 2,247	衣 料 4,894	メ イ ズ 7,700	貴 石 11,550
7	ジュート 230	マング豆 255	エ ビ 891	貴 石 3,240	貴 石 6,350	魚 缶 詰 9,516
8	卵 122	エ ビ 224	ジュート 643	砂 糖 2,975	砂 糖 6,247	砂 糖 8,573
9	家 畜 100	ホタル石 222	タバコ葉 569	エ ビ 1,961	錫 5,647	宝 石 8,257
10	皮 革 82	タバコ葉 197	セメント 512	果物缶詰 1,474	魚 缶 詰 5,204	履 物 5,915
	輸出総額 8,614	14,772	45,007	133,197	193,366	299,853
	上位10品目計 7,415	11,175	30,186	79,936	114,034	171,448
	(%) (86.1)	(75.6)	(67.1)	(60.0)	(59.0)	(57.2)
	そ の 他 1,199	3,597	14,821	53,261	79,332	128,405
	(%) (13.9)	(24.4)	(32.9)	(40.0)	(41.0)	(42.8)

出所：Bank of Thailand

出額が急速に増加したのは一九七二年で、前年の三・三倍の一二・六億バーツとなり、全輸出額の五・六％に達した。その後、品目の入れ替え、順位の変化はあるものの砂糖、繊維製品、食品缶詰など上位にはいる工業品は年々増えている。特筆すべきは、繊維製品の輸出額が、タイの伝統的輸出品として長い間最大の外貨獲得商品であった米の輸出額を一九八五年に上回り、第一位となったことであろう。繊維製品の輸出額は、一九八七年には米の二倍を上回る四八五億バーツ、全輸出額の一六％を占めるに至った。一九八〇年代に入ってから、ICが上位に登場した点にも注目すべきであろう。ICの輸出額は、一九八五年にメイズ、砂糖を抜いて五位になっている。なお、輸出上位一品目に入っている工業品は、一九七〇年では全く無かったのに、八七年には六品目を数えている。

今一つの変化は、輸出品目の多様化である。一九六〇年代の全輸出額に占める上位一〇品目の比重は八六％と高く、特に、ゴムと米の二品目で六〇％を占めていた。その後、エビ、繊維製品、缶詰加工品の輸出も増加した。その結果、上位一〇品目の比重は着実に低下し、一九八〇年代には六〇％を割った。上位一〇品目には含まれていないが、最近の輸出の中で重要なものとしては、冷凍チキン、生イカ、スルメ、木製品、家具・同部品、プラスチック製品、造花などがある。

このように、タイでは、繊維製品、魚やパイナップル等の缶詰類、宝石、履物など恵まれた自然条件と豊富な労働力を利用した工業品の輸出が伸びており、生産面と同様、輸出面でも「工業国」の一員になりつつある。しかしながら雇用面を見ると、経済発展に伴う「農業から工業へ」という産業構造の変化は小さい。一九八〇年の人口センサスによれば、労働人口（タイの場合一歳以上）二、三二八万人の七二％は今なお農業が抱えている。一九七〇年から八〇年の一〇年間に六六三万人の労働人口が増加したが、農業はその五五％を吸収し、生産・輸出で急速に伸びている製造業は九％を吸収したに過ぎない。タ

イは現在でも多くの雇用を農業に依存しているわけである。

タイの農業は、主食である米を柱に、世界市場の動向を敏感にキャッチし、耕地面積の拡大によって、生産を伸ばし、またメイズ、キャッサバなど輸出作物の多角化を図ってきた。その結果として大量の労働力を吸収してきた。農業の多角化によって必要になった労働力は、豊富な人口を持つ農村で自己再生産され、また米作地から補充されてきた。このことはタイの国内人口移動の流れによって掴むことが出来る。

高い雇用吸収力と主食である米を柱とする生産構造を持つ農業の存在によって、タイでは、工業化に伴う生産面での産業構造変化に対し、雇用面での遅れが生じたと言える。この雇用面での産業構造変化の遅れが農工間の生産性格差を拡大し（農業に対する製造業の労働生産性は、一九六〇年の約七倍から八〇年には約一一倍になっている）、さらに、この農工間の生産性格差の拡大が、タイ工業化の大きな問題である地域的遍在―製造業付加価値の八割はバンコクおよびその周辺七県で生み出されている―によってバンコクと地方との所得格差の拡大を生んでいる。

一九七〇年代になると農業の多角化を支えてきた農地の外延的拡大は限界に達し、森林破壊も進んできた。このため、これまでのような農業の高い雇用吸収力は期待できなくなってきた。農業の過剰労働人口は他の産業への流出を余儀なくされ、それは結果的には、農業以外の雇用機会が集中しているバンコクおよびその周辺県への人口集中を加速させている。これらの問題、すなわち農業の雇用吸収力の急速な低下とその結果としての今以上のバンコクへの人口の過度集中への対応は、タイの今後の経済発展にとって最大の課題と言えよう。それは地方／農村での貧困と雇用問題であり、バンコクでの人口過度集中に伴う都市問題と都市の吸収力を上回るスピードでの人口流入の結果としてのインフォーマル部門への人口の滞留がもたらす様々な社会



経済問題である。

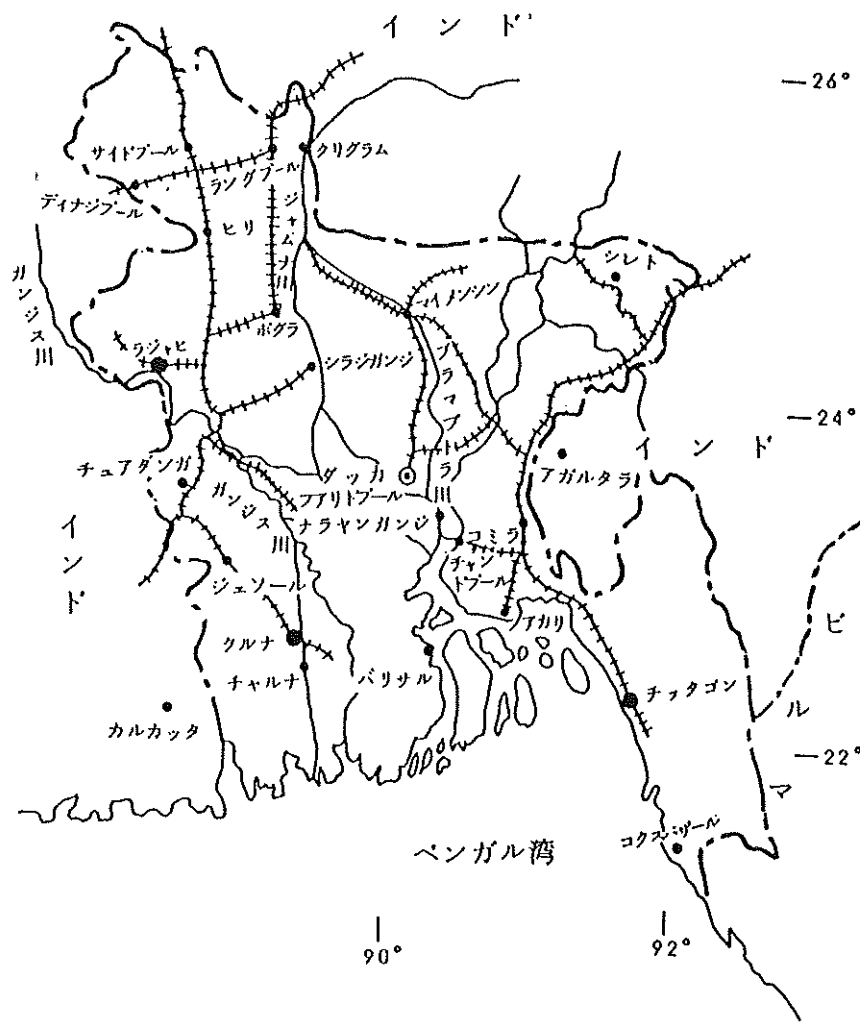
今後、タイが韓国や台湾の後を追って新たな“NIES”の一員となるには、急速な進展が予想される雇用面での産業構造の変化に伴う摩擦を可能な限り小さくすることが必要であり、そのためには製造業を中心とする近代部門での雇用吸収力を高めることが不可欠である。従来から、タイ政府は、バンコクと地方との所得格差の是正を図るために、地域開発・工業の地方分散に努めてきたが、その成果は必ずしも上がっていない。むしろ所得格差は拡大し、工業の集中度は高まってきたのが現実である。しかしながら、一九八九年代に入り、工業は

地方分散ではないが、バンコクを中心として面的拡大を見せている。

日本や台湾などの外資の進出も活発化しており、バンコクと地方を結んでいる国道に沿って新しい工場が次々に建設されている。こうした活力を利用して雇用吸収力の高い近代部門の積極的な展開を図ることによって、これからの急速な構造変化への対応を真剣に考えなければならぬ。



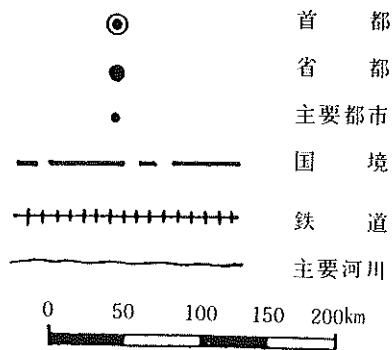
改善されたスラム地区



バングラデシュ

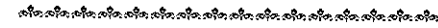


(凡例)



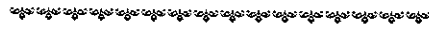
バングラデシュを視察する

国際人口問題議員懇談会



国際人口問題議員懇談会のバンングラデシュ視察議員団（团长、中西一郎参院議員）の一行六人は、一〇月一九日から八日間、ダツカ、パンチドナなどを中心に、同国の人口事情を視察し、併せて水害現地を訪れ、被害状況や救援の実情を聞いた。

一行は行く先き先きで大歓迎をうけ、真剣に現地事情に耳を傾け、両国の友好親善に大きな役割りを果たした。  
以下は事務局員の随行記である。



## バンングラデシュ人口事情 視察議員に随行して

青 木 洋 子

（アジア人口開発協会事務局次長）

インド、ネパール、ブータンに源を発するガンジス川、ブラマプトラ川、メグナ川の三角州に位置し、ベンガル湾を臨む平均海拔八メートルのこの国は国土の三分の一が毎年雨期に水没するという。今回の我々議員団の訪問は人口事情の視察だったが同時に水害の実情を見に来てくれたということで先方の要人に想像以上に喜んでもらった。バンングラデシュに日本の議員六名もの団が訪問したのも初めてのことであった。国土面積一四万四千km<sup>2</sup>、人口一億一〇〇万人のバンングラデシュは、日本に次ぐ世界第八位の人口大国である。人口成長率は二・七%、人口密度七〇〇人/km<sup>2</sup>（上記人口はいずれも一九八八年国連推計）。この人口密度を1km<sup>2</sup>当り日本の三二二人、アジアの一〇二人、欧州の一〇〇人、アフリカの一八人、北米の一七人、南米の一五人、ソ連の二人、オセアニアの三人と比較すれば、如何にちゆう密であるかが分かる。さらに昨年の洪水時では、一二万二千km<sup>2</sup>が水没したため、

一時的にせよ、約五千人/km<sup>2</sup>という、信じられない程の人口密度が生じたこととなる。

町に出るとバスに鈴なりの人、人力車に四人もの人が乗っていたり、ホロがけ三輪自動車に六人乗っていたりする。

洪水について、エルシャド大統領演説の中から一昨年と昨年の被害状況の概要を次の表により対比してみる。

洪水の主要原因は、

- (1) ヒマラヤ地域の森林伐採
  - (2) 崖崩れにより、流失防止のための自然遮蔽物が減少したこと
  - (3) 例年に比較してヒマラヤの雪解け水が増大したこと
  - (4) バングラデシュの河川上流にダム（ファラッカダムを含む）、堤防等の建設を行ったこと
- の四点が挙げられている。

表 1

	1987年	1988年
被害	57,000km <sup>2</sup>	122,000km <sup>2</sup>
	3,000万人	5,000万人
全壊	250万戸	280万戸
半壊		520万戸
流失	520万エーカー	750万エーカー
道路	64,000頭	115,000頭
舗装	2,800km	2,935km
非舗装	51,079km	65,982km
鉄道	524km	637km
	(26)	(44)
教育施設		2,075 (全壊)
		8,499 (半壊)

## バングラデシュの人口と開発に対する

### 取り組みについて

一〇月二一日（金） 一行はダツカ北西部四〇kmに位置するナルシン  
 デイ県パンチドナ・ユニオン（郡）のパンチドナ村を訪れた。村に通



パンチドナ村のガールスカウト謁見式

じる道路は洪水で橋も流され、一時不通となっていた。ところが、水が引いて、三日もしたら、橋の復旧が行われると言う勤勉な民族なのだ。

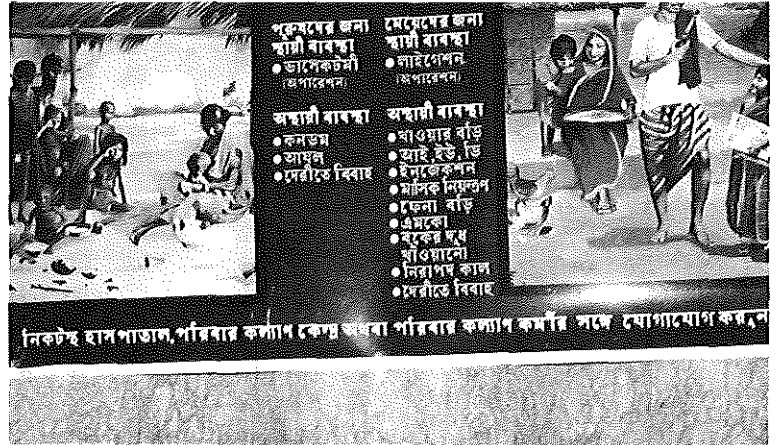
視察は青い制服を身に纏ったガールスカウトの歓迎謁見式出始まった。ちなみに、ここで村といっている単位は、正式にはユニオンである。バングラデシユの地方自治単位は、全土は四地方 (Division)

on)、六四県 (District) に分割され、県は四六〇郡 (Upa-Zilla) に、さらに四、三三九村 (Union) に分割されている。

現地では、パンチドナ村での家族計画、栄養、寄生虫駆除プロジェクトの実施状況につき、知事も臨席し熱心に説明を受けた。歓迎式典では、ハリブール、ラマン、サルカープロジェクト最高責任者から、『この総合プロジェクトの特徴は、社会の貧しい階層益するということにある。特に発展途上国の低所得者層は、成人、幼児のいずれも、十分な食料をほとんど摂っていない。このような人々は、同時に寄生虫への感染からの被害も被っている。彼らが僅かに摂取するものささえも、胃の中の寄生虫に消費され、彼らの食物摂取は結局役に立っていないことになる。本プロジェクトによる寄生虫駆除は、私どもの子供達にとって栄養補給を大きく改善することになる。』



パンチドナ村歓迎式であいさつをする中西一郎団長



少産で豊かな暮らし、多産で貧しい暮らしの対比のポスター  
(パンチドナ村プロジェクトで)

私共は、皆様と日本政府が本プロジェクト遂行のために私共に援助の手を差し伸べられた事に対し感謝申し上げます。

さらに私共は、先頃の大洪水災害時、日本政府が親身にお世話下さり、財政的な援助を与えて下さった事にも感謝している。

私共、委員会メンバーは地方の民政行政と協力して、両親の心に入口爆発を阻止するための産児制限についての信頼感を削り出してきた。しかし、現在の諸条件下では最新の手法に付いての知識に乏しいこと、否めない事実であり、日本のような先進国を訪問する機会があれば、新しい技術のノウハウに習熟するのにきわめて有益であり、非常に実質的な助けになるであろう。』との挨拶があった。

このあと、ガールスカウトの美少女三名が、オルガン伴奏でエルシヤド大統領作詞といわれている「美しきバングラデシュ」をベンガル語で歌ってくれた。バングラデシュは貧しいけれど希望に満ちあふれているというような元気を鼓舞する歌なのだそうである。エルシヤド

大統領は詩を愛し、自ら作詞し、この歌の作詩者も同大統領のことだった。大統領表敬訪問時、大統領の作詞された歌を聞かせて貰った旨を伝えると、どこでだと大変関心を示された。

パンチドナ村は、バングラデシュ政府が一九八〇年から八七年にかけて実施した「家族計画・栄養・寄生虫コントロールのための総合的アプローチ」計画の四プロジェクト実施地域の一つに選ばれ、その結果、避妊の履行率五九・八%（全国レベル二九・七%）、寄生虫感染症率五二%（全国レベル九〇%）を達成し、家族計画プロジェクトの成功地域として注目された。

プロジェクトが開始された一九八〇年当時、同村は、人口が一三、一一三人で、人口増加率は年四・四%、粗出生率は五五パーミル、粗死亡率は一パーミル、また、幼児死亡率は実に七五パーミルと極めて高い状況にあった。出産可能年齢にあった約二、三二五人の既婚婦人のうち、一七、二九%が何らかの避妊手段をとっていたが、婦人たちの間では概して避妊に対する羞恥心が強く、避妊の実行を大きく妨げていた。また、環境衛生に対する観念も乏しく、二、二七一世帯のうち九五%にはトイレが無く、一、一二歳の児童の寄生虫羅病率は約八九%に達するという状況にあった。

このような状況下で、このプロジェクトは地域社会の参加を原則とし次の戦略で同村の家族計画を成功に導いた。

#### 1 既存の家族計画実施機関の利用

#### 2 家庭訪問等の啓発活動における地元ボランティアの活用。

（ボランティアには基礎的トレーニングが与えられた。婦人二人で組み、戸別訪問し、例えば、痩せこけた子供が四人いて貧しい生活をしている絵と二人の子供で豊かな生活をしている絵を対比し、示し、どちらが幸福かを教える。）

#### 3 地域リーダー（村評議会の議長、議員、医師、教師等）からなる運営委員会の設置

4 母親クラブの結成（会費は一〇タカ／月で（一タカは約四円）、参加の権利はすべての婦人にある。会員は一週間に二回、寄生虫症、栄養、妊娠、子供の健康管理等に関する研修を受けられる）

5 プロジェクト地域における活発なI・E・C（情報・教育・伝達）プログラムの履行。（セミナーの開催や地域住民への健康・栄養・環境衛生に関する情報提供、教育の実施）

パンチドナ村の家族計画では、村人が自助努力により状況を改善できるという自信、連帯感を養われたこと、また地域リーダーの参加によってプロジェクト運営上の温情主義を排除できた事等が、同計画の最大の要因といわれている。

午後五時から、デソウ在ダツカUNDP代表を表敬訪問する。

同代表は、

「バングラデシュは、今回の大洪水の影響で一〇億ドルと推定される経済的損失を蒙っており、早急な対策が必要である。このような時に日本からこのような視察団が来られることは有意義であり、国連を代表し、歓迎したい。国連はバングラデシュが抱える数多くの問題に対処するため努力を続けており、具体的には、家族計画の導入、農業開発などに力を入れている。日本がバングラデシュに種々の分野において積極的な活動を行っていることを評価している。援助大国の地位を占めている日本が今後とも二国間および国際機関との協力を通じバングラデシュの経済・社会開発に協力することが有意義かつ重要であり、果たせる役割は大きいと考える。」と語った。

一〇月二三日（土） 午前中ムニム保健大臣およびカリム保健省次官、チョードリー、バングラデシュ国会議長と相次いで会見する。

ムニム保健大臣は、

(1) バングラデシュは家族計画を最も重要な施策の一つとして位置付



けている。ご一行の訪問を極めて重要視するとともに、心から歓迎したい。

(2) 現在、我が国では、保健省の監督下で県レベルでの病院、その下のウパジラ（郡）レベルでのヘルス・コンプレックス、ユニオン（村）レベルでの医療活動等を通じ、保健サーヴィスおよび家族計画の二つの分野での活動を行っている。また、政府の支援により、胸部疾患、糖尿病との分野での病院、国際下痢性疾病研究センター等が自主的に運営されている。

(3) 家族計画に関する当方の基本的な考え方は、母子保健と組み合わせ、実施しない限り効果を挙げないと言うことであり、この点に関しては、すでに一、一〇〇〜二、〇〇〇ヶ所程度で活動を行っている村レベルの家族福祉センターを将来病院にまで格上げし活動を強化したいと考えている。

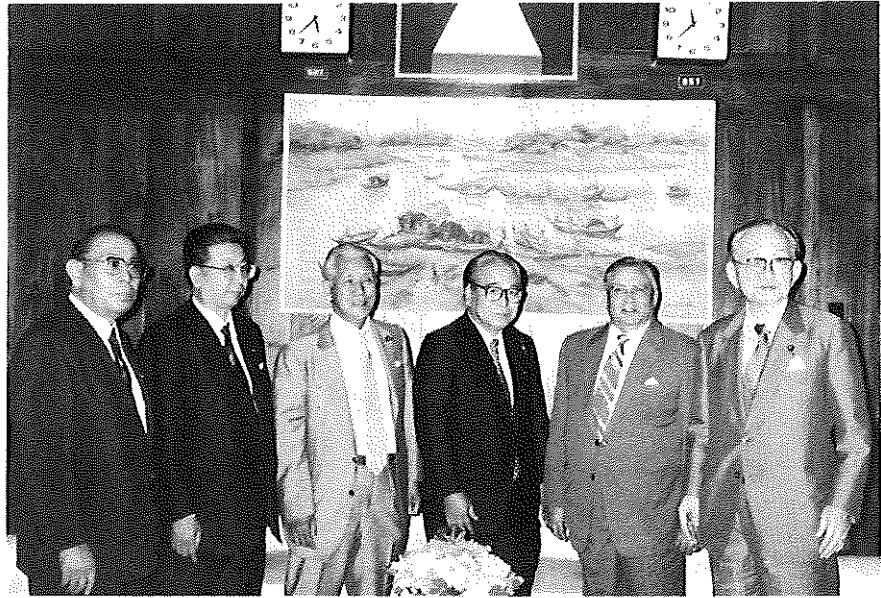
(4) 今回の洪水に際し、日本政府より迅速に医薬品を送っていただいた事に感謝している。」と説明。

カリム次官発言は、

(1) 保健省の下に保険庁（Health Service Department）と家族計画庁（Family Planning Department）がある。

われわれの当面の目標は、新生児の生存を確保することおよび母親の出産間隔を拡げることである。昨日、一行が訪問されたパンチドナ・プロジェクトはまさに上記戦略に合致するものであり、また、今後日本の援助によるJOICFPプロジェクト等も拡大して行きたいと考えている。

(2) 日本の無償援助によるナランガンジー総合病院については、かねてより同病院の成果を評価して戴いた上で、更に保健・家族計画の分野での一層の協力をお願いしたい。これに対して日本側は、現在、同病院がどういう形で運営されているか、今後のニーズとを充分把握した上で、わが国の援助方針を決定していく考え



国会議事堂にて チョードリー国会議員表敬（右から2人目）  
左から、平石議員、大矢議員、田代議員、井上議員、チョードリー議員、  
中西議員

であり、近くその調査のためのミッシヨンが派遣される予定であると対応した。

(1) 日本は、一九七二年のバングラデシュ独立の際に、いち早く我が国を独立国として承認するとともに、独立後も、我が国の経済発展のためチッタゴン、ゴラサール肥料工場を建設、また、橋の建設を行う等、様々な分野に

において協力して戴いた。これら日本の協力で建てた建造物は全国各地でみられ、日本とバングラデッシュとの友好のシンボルとなっている。この様な日本からの国会議員の方々とは当国会でお会いすることができ大変光栄に思っている。

(2) 大統領が一九八五年訪日した際、大統領は天皇陛下とお会いしており私としても陛下の速やかなご回復を心より祈っている。

(3) 洪水対策は我が国にとって最大の問題であるが一国だけで解決できる問題ではないため、我が国は、当国に流入する河川と関わるインド、ネパール、ブータン、中国との地域協力を通じて当地域全体の利益につながるよう洪水問題を解決すべく努力している。そのためエルシャド大統領は、インド、ネパール、ブータンを訪問し、また、中国の訪問を予定している。日本は同じアジア地域の一国であ

り我が国の洪水問題の解決が図られるよう協力願いたい。

(4) 我が国と日本の関係は経済協力の分野だけでなく、バ、日議員友好連盟の交流を通じても深まってきており、これらの関係を通じ今後ますます両国の友好関係が緊密になることを期待しているとともに、我が国の議員が日本を視察できる機会を設けて戴きたいと願っている。

(5) 今回の洪水の被害に対する日本の国会議員よりの見舞金に対し謝意を表する、と語り、この会見の様子はテレビ、新聞報道された。

チヨードリー国会議長との会見に引き続き、同国会内の一室でマテイン副首相を座長に意見交換を行った。

バングラデシュの人口問題について以下の概況説明を受けた。

人口 一〇一、一四七、〇〇〇人  
年平均増加率 二・三%（一九九〇年までに一・八%に下げたい。

二〇〇〇年に子供二人）

（現在二九・八%の避妊率を一九九〇年に四〇%に）

出生率	三六／一〇〇〇人
死亡率	一四／一〇〇〇人
乳児死亡率	一〇九／一〇〇〇人

過去二六年間にバングラデシュの人口は二倍になった。第三次五年計画の人口施策をしっかりと実施しなければならぬ。

この後日本側よりバングラデシュと日本は人口規模が同じである、即ち地球上の二%の人口を占める。と指摘し、環境、資源、教育、民度、等比較を行った後、バングラデシュの国家予算の三・七六%を占める家族計画に関わる問題について具体的活動をめぐり活発に討議。

午後三時三〇分からは、バングラデシュ家族計画協会を訪問。

カビール理事長より、同協会の活動について概況説明を受けた。

バングラデシュ家族計画協会は一九五三年に任意団体として発足した。同協会は根深い因習、宗教的偏向等の誤った考え方により遅れていた家族計画、栄養、保健教育等の改善・推進を行い、政府が一九六五年より開始した家族計画のための情報・教育・伝達プログラムに対し側面的に協力している。

基本戦略：

- 1 家族計画、保健教育、避妊薬、避妊具、の提供と母子保健の推進
- 2 コミュニティーが自主運営によりプログラムを推進できるような活氣的、協力的アプローチのデモンストレーション
- 3 ボランティア、青年団体、婦人団体、障害者関係団体、自治体等の養成
- 4 協会の要員養成
- 5 他のNGOsと協力して避妊薬・避妊具および情報・教育・伝達の提供

財源：IPPF, USAID, JOICFP, OXFAM, Population concern local contribution.

人材：政策策定レベルのボランティア 五〇〇人

大きな県（district）二〇県に属するメンバー四〇〇〇人

フィールド ボランティア 二〇〇〇人

専任スタッフ 五〇〇人

土地・建物：ダッカに各一、ほか五県に

以上の説明後診療室、手術室等病院内を視察した。

一〇月二三日（日）午前一一時四五分～一二時四〇分循環器病センター視察

バングラデシュ政府は、心疾患の予防・診断および治療技術の向上を目的として、一九七八年ダッカ市に循環器病センターを設立した。

これに対し日本政府は、無償資金協力およびプロジェクト方式技術協力により、機材提供、専門家の派遣、研修生の受け入れ等の援助を行ってきた。今回はその運営状況等を視察した。

一〇月二四日(月)一

一時〜一時三〇分

エルシャド大統領表敬

訪問

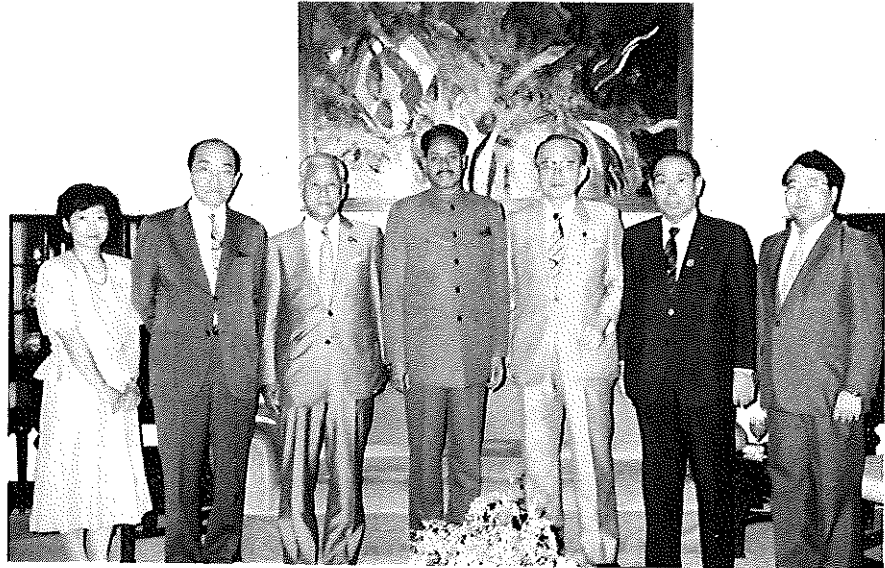
立派な大統領邸のこ

じんまりした一室に通

された。ピンクのカーテン、イタリアンゴブランのソファア、小さな陶製のベンガル虎の置物がある。

マティン副首相、カリム保健省次官が同席。

日本側より、国際人口問題議員懇談会会長の福田元総理に代わって洪水のお見舞い、同大統領の国連人口賞受賞の祝辞、バングラデシュ訪問の印象、大統領の詩作への賛辞を述べた。エルシャド大統領より洪水後の訪問に対して歓迎の意を表した後、洪水に対する緊急援助の礼、日・バ関係の重要性について述べた。また、人口問題の重要性に言及し、一九九〇年迄に人口成長率を二・〇〜一・八%に下げたいという国家計画(第三次五カ年計画)に沿った発言があった。さらに、バングラデシュの恒久的解決に向けての施策に対する日本の協力要請があった。今回の洪水の農作物に与えた被害については、作物が収



大統領官邸 エルシャド大統領表敬(中央)

左から、青木APDA事務局次長、井口大使、田代議員、エルシャド大統領、中西団長、平石議員、浜田外務省首席事務官

穫時期までに全体的には掌握できないとしながらも被害の概況の説明があった。

この表敬訪問の様子はテレビ、新聞で報道された。

以上の会合・視察のほか、本議員団は、バングラデシュ訪問中、青年海外協力隊員との懇談、カムラプール仏教僧院（故早川議員分骨堂参拝、孤児院視察）、オイスカ婦人研修センターの視察、茸栽培センターの視察等精力的な活動を行った。なお、団長主催のレセプションには、バングラデシュより漁業相、文化相等の出席を得、和やかな雰囲気の中で友好を深めることになった。

今回のバングラデシュ訪問でバングラデシュの人口問題に関わる議員が前回までのメンバーと全員代わっていたため、新たに人口と開発に関するアジア議員フォーラム連絡先の立て直しも行った。

## 雑 感

パンチドナに行く途中、まだ水に浸っている電柱が見える。布袋菜の花が咲いている。ベンガル語でコチュリパラ、英語でウォーター・ヒアシンス、これが花は美しいがとんでもない仇花で、家畜の飼料にしようとする、家畜が下痢をして痩せてしまう。また、池に繁茂すると魚の棲みかを脅かす。繊維が堅く石灰を含んでおり堆肥にもならない。窓外に見る住居は竹とよしで出来ているいわゆるアンペラで壁を囲ってトタン屋根を置いただけの小屋である。竹を足場と手摺りに一本ずつ渡した橋を器用に渡っている。ベンガルの肥よくな大地といわれているように、洪水がなければ青々とした緑豊かな田園風景が繰り広げられるのだが、それにしても、道で草を食む牛もあばら骨が浮いているし、頭に物を載せて巻きスカートで歩いている人々も贅肉は一かけらもない。外を歩いているのは顎髭など蓄えた男の人が圧倒的に

多く、女の人を余り見かけない。買い物、外回りの仕事は、男性の仕事であるようである。家庭内での女性の権限は強いと言うが、これは日本の男性が言っていた事なのではっきりしたところはわからない。ここでも農地の問題がある。子供に土地を均等分割する宗教習慣とどうか、制度のため土地が段々細分化され使えなくなりそれを売るという現象が起きて、大地主がますます大きくなるというわけである。

国家予算は一般会計予算については一般会計歳入総額は四九一・五億タカ（一タカは約四円とし、一九六六億円）。それとは別に特別会計五九七・九億タカが組まれているが、その八四・四%五〇四・六億タカは年次開発計画予算である。年次開発計画の部門別内訳は、電力八八・三億タカ（一七・五%）、水資源開発五六・〇億タカ（一一・一%）、工業五五・六億タカ（一一・〇%）、運輸四九・九億タカ（九・九%）等となっている。年次開発計画の財源は八九・五%にあたる四五一・六億タカを海外援助に依存している。

知り得た個人の収入については、一世帯平均賃金は都市で一三〇〇タカ、大学初任給一五〇〇タカ、大統領一五〇〇〇タカ、次官七五〇〇タカ、大学初任給一五〇〇タカ、日雇い人夫一〇〇タカ、左官一〇〇〇タカ、タカである。

おわりに本団に対するバングラデシュ側の温かいおもてなしと、本団受け入れに関し、お世話になった、バングラデシュ国会事務局、外務省、井口大使を始めとする在ダッカ日本大使館員ならびにJOCIFPの方々に心からお礼を申し上げると共にIPPFFのご支援に感謝申し上げます。

国際人口問題議員懇談会

バングラデシュ視察議員団メンバー（敬称略）

自 民 社 会 自 民 自 民 公 明 民 社	團 長 中 西 一 郎 (参)
	副団長 井 上 普 方 (衆)
	田 代 由 紀 男 (参)
	武 村 正 義 (衆)
	平 石 磨 作 太 郎 (衆)
	大 矢 卓 史 (衆)

<p>10月9日 22日</p>	<p>昭和63年度「アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究」調査団をタイ国に派遣（团长・原洋之介、渡辺真知子、佐藤嘉倫、遠藤正昭）。</p>
<p>11月23日 29日</p>	<p>タイ国人口・開発国会議員訪日視察団受入。プラソップ・ラタナコーン上院議員他5名計6名。国際人口問題議員懇談会メンバー議員と交流、東京都養育院他を視察。</p>
<p>11月28日</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」開催。</p>
<p>12月19日</p>	<p>佐藤隆同フォーラム議長他アジア7カ国、UNFPA等出席。於赤坂プリンスホテル。</p>
<p>12月20日</p>	<p>IPPF・ウィラクーン事務局長、アルビハレー事務局長付顧問、福田赳夫GCPPD会長、佐藤隆AFPPD議長表敬。</p>
<p>12月20日</p>	<p>IPPF・ウィラクーン事務局長、アルビハレー事務局長付顧問来所、共同事業について広瀬次雄事務局長らと協議。</p>



## 財団法人 アジア人口・開発協会発足並びに議員活動

<p style="text-align: center;">一九七三・十 (十・十三～二十八)</p>	<p style="text-align: center;">アジア人口事情視察団派遣（インド、タイ、インドネシア、フィリピン）</p> <p style="text-align: center;">国会議員（日本）</p> <p style="text-align: center;">岸 信介（団長）、田中龍夫、八田貞義、 佐藤 隆、山崎竜男、加藤シズエ、 阿部昭吾</p> <p style="text-align: center;">その他</p> <p style="text-align: center;">Wドレーパー、J・タイディングス、花村仁八郎、 官庁、マスコミ関係等</p>
<p style="text-align: center;">一九七四・四・一</p>	<p style="text-align: center;">『国際人口問題議員懇談会』設立（会長…岸 信介） 衆・参超党派議員一一九名で発足。</p> <p style="text-align: center;">☆世界で初の試みである。</p>
<p style="text-align: center;">一九七四・四・二十五</p>	<p style="text-align: center;">『食糧と人口に関する宣言』…国連式典 (於…国連本部)</p> <p style="text-align: center;">宣言書署名…佐藤 隆</p> <p style="text-align: center;">○八月及び十一月の世界人口・食糧会議に先立ち、 各国政府に現実的且つ果敢な諸政策を採るよう 要請する五項目から成る。</p> <p style="text-align: center;">○人口・食糧問題解決の為、国連にリーダーシッ プをとることを要請した宣言文。</p>

<p>一九七四・八 (八・十九～三十)</p>	<p>「第三回 国際人口会議」 (於…ブカレスト) 総勢 四五〇〇人 齊藤邦吉(元厚生大臣)、八田貞義、佐藤 隆、 堂森芳夫、柏原ヤス、中沢伊登子 他</p>
<p>一九七四・十</p>	<p>「IPU列国議会同盟会議」 (於…東京) 参加国…六十五カ国 佐藤 隆代議士 「食糧と人口問題」ライス・バンク構想を 提唱。</p>
<p>一九七七・九 (九・三～十八)</p>	<p>中南米家族計画視察団(メキシコ、コロンビア、ブラ ジル、アメリカ、カナダ) 国会議員(八名) 岸 信介(団長)、佐藤 隆、住 栄作、 安孫子藤吉、和田耕作、阿部昭吾、福岡義登、 吉寺 宏、他 顧問団(十六名) 大来佐武郎、花村仁八郎 他 UNFPA二名、事務局五名 ○先進国にも、途上国にも、人口問題議員グループ を結成させるべく、各国立法府議員に呼びかけた。</p>

<p>一九七九・三</p>	<p>一九七八・十 (十・十六、十七)</p>	<p>一九七八・三 (三・二十八、三十)</p>	<p>一九七七・十二 (十二・五、十一)</p>
<p>IPOP 国際会議準備委員会 (第三回) (於…メキシコ)</p> <p>日本側参加者…佐藤 隆 他</p> <p>○「宣言」の草案作成、○会議規定、○日程 etc</p>	<p>「IPOP 国際会議準備委員会」 (第二回) (於…チュニジア)</p> <p>日本側参加者…佐藤 隆 他</p> <p>○開催国、○主催機関、○議題 etc、について</p>	<p>「人口と開発列国国會議員 (IPOP) 東京会議」   第一回 国際会議準備会議  </p> <p>参加国…米、英、加、西独、インド、スリランカ、 メキシコ、ブラジル、コロンビア (九カ国 四十名)、日本 (十名)</p> <p>○運営委員メンバー国、○参加国、○議事日程、 ○予算</p>	<p>「人口と開発先進国会議」 (ロンドン、ボン、ベルリン)</p> <p>参加国…日、米、英、加、西独 (五カ国…十六名) 日本側…佐藤 隆、和田耕作、土井たか子</p> <p>○一九七七年九月の中南米視察に引続き各国立法府 議員への呼びかけ。</p> <p>○国際議員会議の開催について討議。</p>

<p>一九七九・八 (八・二十六) 九・二)</p>	<p>「IPOP 国際会議」 (於…スリランカ) 参加国…六十四カ国 他、国連各機関、I P P F 等 総勢 五五〇名 日本側…岸 信介、佐藤 隆、石本 茂、中村啓一、 柏原ヤス ☆人口問題議員グループ、結成国二十五カ国を超 えるに到ったので、UNFPA に働きかけ、コ ロンボで開催。 一、「コロombo宣言」採択 この宣言により、一九八一年、アフリカ、 ヨーロッパ、アジアの各大陸での人口会議 が開かれた。 一九八一年 七月 ケニヤのナイロビに 於て 十月 中国の北京に於て 十二月 仏、ストラスブール に於て 一九八二年十二月 ブラジルのリオデジ ヤネイロに於て (予定)</p>
<p>一九八〇・九 (九・十一、十三)</p>	<p>「資源、人口、開発に関するアセアン国会議員代表者 会議」 (於…クアラルンプール) 参加国…シンガポール、マレーシア、タイ、フィリ ピン、インドネシア(五カ国) 日本側…佐藤 隆、住 栄作、井上晋方 ○日本はオブザーバーとして参加をし、北京会議 開催を提案。合意を取付けた。</p>

<p>一九八〇・十一</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 日・中打合せ 佐藤 隆、井上普方 ○開催地北京への正式な可能性打診 (於…北京)</p>
<p>一九八一・二</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 第一回運営委員会 参加国…日本、中国、インド、スリランカ、 マレーシア ○政治、イデオロギーの問題の除外について (於…東京)</p>
<p>一九八一・三・二十三</p>	<p>佐藤 隆代議士——国連開発計画(UNDP)と アドバイザー契約締結 ○一九七九年八月の「コロンボ宣言」に基づく、 地域IPOP会議の開催とそのフォローアップ を任務とする。</p>
<p>一九八一・六 (六・十九、二十)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 第二回運営委員会 参加国…日本、中国、インド、スリランカ 他 UNFPA 日本側…佐藤 隆、住 栄作、 土井たか子 他五名 (於…北京)</p>

一九八一・十  
 (十・二十七、三十)

「人口と開発に関するアジア国会議員会議」

開催地…中国北京市  
 会場…人民大会堂

(1) 日本側出席者…

- 1、团长 福田 赳夫 (衆・自)
- 2、佐藤 隆 (〃)
- 3、住 栄作 (〃)
- 4、関谷 勝嗣 (〃)
- 5、桜井 新 (〃)
- 6、栗山 明 (〃)
- 7、石本 茂 (参・自)
- 8、田代 由紀男 (〃)
- 9、林 寛子 (〃)
- 10、井上 晋方 (衆・社)
- 11、土井 たか子 (〃)
- 12、福岡 義登 (〃)
- 13、川本 敏美 (〃)
- 14、片山 甚市 (参・社)
- 15、有島 重武 (衆・公)
- 16、柏原 ヤス (参・公)
- 17、矢追 秀彦 (〃)
- 18、和田 耕作 (衆・民社)
- 19、柄谷 道一 (参・民社)
- 20、山口 敏夫 (衆・新自)
- 21、阿部 昭吾 (衆・社民連)

秘書数名  
 同時通訳者 三名  
 事務局 三名

<p>一九八一・十・三十</p>	
<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議 第三回運営委員会」 (北京会議最終日同地にて)</p>	<p>(2) 議長…廖承志(中国全人代副委員長) 副議長…佐藤隆 他五名 司 会…陳慕華(中国副総理) 起草委員…住 栄作 他五名</p> <p>(3) 主なる日程</p> <p>① 第一日目(十月二十七日) ○ 福田元首相の特別講演 ○ 福田元首相、国連平和賞受賞</p> <p>② 第二日目(十月二十八日) ○ 黒田俊夫博士の 「日本の人口変動の傾向と展望」講演</p> <p>③ 第三日目(十月二十九日) ○ 住代議士によるカントリー・レポート発表</p> <p>④ 最終日(十月三十日) ○ 北京宣言採択</p>

<p>一九八二・二・十</p>	<p>財団法人アジア人口・開発協会 創立</p> <p>☆北京会議時の第三回運営委員会に於て、発議された「アジア議員フォーラム」の活動母体として創された。</p> <p>理事長・田中 龍夫（衆議院議員自民党総務会長）  副理事長・佐藤 隆（ 自民党副幹事長）  理事 事…住 栄作（ 自民党総務局長）  〃 …花村仁八郎（経団連副会長）  〃 …前田福三郎（日本電波塔(株)社長）  監 事…斎田慶四郎（勸家族計画国際協力財団 事務局長）</p>
<p>一九八二・三  （三・八・九）</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム暫定委員会」（於…ニューデリー）</p> <p>参加国…六ヶ国…中国、日本、マレーシア、スリランカ、インド、オーストラリア</p> <p>他機関…UNFPA、IPPF、AYCP</p> <p>日本側…佐藤 隆、井上晋方 他人口問題専門家</p> <p>○一九八一年十月三十日付「北京宣言」に基く「Asian Forum of Parliamentarians on Population and Development (A. F. P. P. D.)」人口と開発に関するアジア議員フォーラムを正式に発足。</p> <p>○AFPDP発足に伴い、この委員会はそのままAFPDP第一回運営委員会となった。</p>



<p>一九八二・八 (八・二一三)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回準備運営委員会」 (於…マニラ)</p> <p>参加国…日本、中国、インド、スリランカ、オーストラリア、フィリピン、他UNDP、UNFPA等</p> <p>議長…佐藤 隆</p> <p>○準備委員会及び大会参加国等について (準備運営委員会役員にフィリピンが加わった)</p>
<p>一九八二・十二 (十二・二一五)</p>	<p>「人口と開発に関するブラジル会議」 (於…ブラジル)</p> <p>参加国…西半球諸国二十ヶ国</p> <p>議題…西半球諸国の開発・人口・婦人の地位・子供の保護・移民の各問題について。</p> <p>宣言…各国に「人口と開発に関する国内議員委員会」を形成し、議題としてとりあげた諸問題の改善に向け、積極的に努力する。</p>

<p>一九八三・三 (三・七、九)</p>	<p>「元大統領・首相会議設立委員会」 (於…ウイーン、ホーフブルグ王宮) 主 催…人口と開発に関するグローバル・コミッテイ 共 催…国連開発計画(UNDP) 発起人メンバー… 日 本・福田赳夫元首相 ウイーン・ワルトハイム前国連事務総長 ルーマニア・マネスク元首相 セネガル・サンゴール前大統領 コロンビア・パストラーナ・ボレロ元大統領 チュニジア・ヌイラ元首相 オブザーバー…イギリス・ヒース元首相 第一回執行委員会…'83年5月東京で開催予定 本会議…'83年秋開催予定</p>
<p>一九八三・五 (五・十九、二十)</p>	<p>元大統領・首相会議執行委員会 (於…東京) 福田赳夫元首相 ワルトハイム前国連事務総長 ボレロ元コロンビア大統領 第一回本会議…'83年11月中旬オーストリアで開催 予定</p>

<p>一九八三・七・七</p> <p>財団法人アジア人口・開発協会理事会  厚生、外務、農林水産三省共管認可法人に拡大して  初の理事会で新たに次の十氏が理事に就任。</p> <p>〈人口・開発・食糧分野〉</p> <p>理事…黒田 俊夫（日大人口研究所顧問）  〃 …川野 重任（東大名誉教授）  〃 …小林 和正（日大人口研究所教授）</p> <p>〈科学技術・エネルギー・資源分野〉</p> <p>理事…本多 健一（東大工学部教授）  〃 …森 一久（日本原子力産業会議専務理事）  〃 …武田修三郎（東海大工学部教授）</p> <p>〈行政OB・官界〉</p> <p>理事…内村 良英（元農林事務次官）  〃 …翁 久次郎（元厚生事務次官）  〃 …須之部量三（前外務事務次官）</p> <p>〈経 済 界〉</p> <p>理事…房野 夏明（経団連総務部長）</p>	<p>一九八三・十  （十・十・十一）</p>
<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回準備運営委員会」  （於…バンコク）</p> <p>参加国…日本、中国、インド、フィリピン、  UNDP、UNFPA、IPPF  議長…佐藤 隆</p> <p>○大会参加国等について</p>	

一九八三・十一  
(十六、十八)

「元大統領・首相会議第一回総会」

(於…ウィーン、ホーフアルグ王宮)

主 催…人口と開発に関するグローバル・コミッテイー  
共 催…国連開発計画 (UNDP)  
召 集 者…福田赳夫

議 長…クルト・ワルトハイム (前国連事務総長)  
事務総長…ブラッドフォード・モース (UNDP事務総長)

構 成 国…(二十六カ国)

○ 日 本…福田 赳夫

○ 国 際 連 合…クルト・ワルトハイム

○ カ メ ル ー ン…アーマッド・アヒジヨ

○ イ タ リ ア…ジュリオ・アンドレオツテイ

○ ネ パ ー ル…キルティ・ニデイー・ピスタ

○ イ ギ リ ス…ジェームス・キャラハン

○ フ ラ ン ス…ジャック・シヤパン・デルマ

○ タ イ…クリマンサック・チョマナン

○ ザ ン ビ ア…マテイアス・マインツァ・チョーナ

○ ハ ン ガ リ ー…イエノ・ホック

○ オーストラリア…マルコム・フレザー

○ アルゼンチン…アルトウーロ・フロンデシイ

○ ス イ ス…クルト・フルグラー

○ レ バ ノ ン…セリム・ホス

○ ル ー マ ニ ア…マネア・マネスキュー

○ ジャマイカ…ミハエル・マンレー

○ チュニジア…ヘデイー・ヌイラ

○ ナイジェリア…オルセグン・オバサンジョ

○ モ ロ ッ コ…アハメッド・オスマン

○ コロンビア…ミサエル・パストラーナ・ボレロ

○ ベネズエラ…カルロス・アンドレス・ペレ

<p>一九八四・二・十六</p>	<p>○ポルトガル ○ユーゴスラビア ○西ドイ ツ ○セネガル ○スウェーデン</p> <p>○マリア・ド・ルールド・ピントシルゴ ○ミチャ・リビチツ ○ヘルムート・シュミット ○レオポルド・セダール・サンゴール ○オラ・ウルステン</p>
<p>一九八四・二・十六</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回運営委員会」 (於…ニューデリー)</p> <p>参加国…日本、中国、スリランカ、インド、オーストラリア</p> <p>議長…佐藤 隆</p> <p>○第一回大会の具体的手順及び大会以降の展開について</p>
<p>一九八四・二 (十七、二十)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回大会」</p> <p>開催地…インド・ニューデリー</p> <p>会場…ビギャン・バワン(国際会議場)</p> <p>参加者…三十一カ国、四十七機関…二百九十七名</p> <p>(1)日本側出席者</p> <p>1、名誉団長 福田 赳夫(衆・自)</p> <p>2、団 長 佐藤 隆( 〃 )</p> <p>3、副団長 井上 普方(衆・社)</p> <p>4、 阿部 昭吾(衆・社民連)</p> <p>5、 矢追 秀彦(衆・公)</p> <p>6、 安孫子藤吉(参・自)</p> <p>7、 柄谷 道一(参・民社)</p> <p>8、 石井 一二(参・自)</p> <p>9、 倉田 寛之( 〃 )</p>

<p>一九八四・二・二十</p>	<p>(2) 議 長…バルラム・ジャカール(インド国会議長) 司 会…サット・ポール・ミッタール(アジアフォーラム事務総長) 起草委員…石井一二 他五名</p> <p>(3) 主なる日程</p> <p>① 第一日目(二月十七日) 福田赳夫元首相(グローバル・コミッテイ会長)・歓迎挨拶 インデラ・ガンジーインド首相・歓迎挨拶 ヘルムット・シュミット西独前首相基調演説</p> <p>② 第二日目(二月十八日) 黒田俊夫博士「国家開発政策——人口と開発の新たな元」講演</p> <p>③ 第三日目(二月十九日) ランジット・アタパト・スリランカ厚生大臣 「スリランカ・住民参加」講演</p> <p>④ 最終日 ニューデリ宣言採択</p> <p>「人口と開発に関するアジアフォーラム・各国代表者会議」 参加国…AFPPD公式参加国(十六カ国) UNDP・UNFPA・IPPF 議長…佐藤 隆 ○AFPPD活動方針と展望、今後の活動計画について</p>
------------------	---

一九八四・八  
(八・六十四)

「国連・国際人口会議」

(於…メキシコ)

参加国…百四十九カ国

日本政府首席代表・湯川宏厚生政務次官

日本政府顧問団

田中龍夫(衆議院議員・自)  
佐藤隆(衆議院議員・自)  
水田稔(衆議院議員・社)  
永井孝信(衆議院議員・社)  
矢追秀彦(衆議院議員・公)  
柄谷道一(参議院議員・民)  
石井一二(参議院議員・自)  
黒田俊夫(厚生省人口問題審議会委員)  
安川正彬(厚生省人口問題審議会委員)

一九八四・八  
(十五、十六)

「人口と開発に関する国際議員会議」(於…メキシコ)  
参加国…六十カ国

日本代表団

福田赳夫(衆議院議員・自)  
田中龍夫(衆議院議員・自)  
佐藤隆(衆議院議員・自)  
水田稔(衆議院議員・社)  
永井孝信(衆議院議員・社)  
矢追秀彦(衆議院議員・公)  
柄谷道一(参議院議員・民)  
石井一二(参議院議員・自)  
三塚博(衆議院議員・自)

一九八五・二  
(二・五、七)

「第一回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」  
(於…東京・外務省国際会議室)

主催…財団法人・アジア人口・開発協会(A P D A)

出席者…○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、住

栄作、関谷勝嗣、鹿野道彦、桜井

新(衆・自民)

安孫子藤吉、倉田寛之、石井一二

(参・自民)

井上普方(衆・社会)

矢追秀彦(衆・公明)

高桑栄松(参・公明)

塩田 晋(衆・民社)

柄谷道一(参・民社)

阿部昭吾(衆・社民連)

○オーストラリア…B・J・グッドラック

○中国…許濂新、何理良

○インド…S・P・ミツタール

○インドネシア…マルトノ移住大臣

○韓国…モーイム キン

○マレーシア…ラーマ オスマン交通副大

臣

○ネパール…ドロン シュム シャーラナ

○フィリピン…カルメンシータ レイエス

国務副大臣

○スリランカ…ランジット アタバト厚生

大臣

○タイ…ブンテイウム カマピラド運輸通

信副大臣



日程：第一日目（二月五日）

開会式 APDA理事長・田中龍夫挨拶

内閣総理大臣・中曽根康弘（山崎拓内閣

官房副長官代理）

外務大臣・安倍晋太郎（森山眞弓外務政

務次官代理）

財団法人日本船舶振興会会長・笹川良一

（同財団理事長篠田雄次郎代理）

がそれぞれ祝辞

人口と開発に関するアジア議員フォーラ

ム事務総長・S・P・ミッター挨拶

感謝状贈呈 財団法人・日本船舶振興会

会長 笹川良一（二月五日夜、マツヤサ

ロンで贈呈）

国連人口活動基金事務局長 R・サラス

基調講演・国連人口活動基金事務局長

R・サラス

本会議・セッションI ランジット ア

タパト・スリランカ厚生大臣を議長に選

出

セッションII 問題提起

中国人口基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

小林和正（日大人口研究所教授）

インド農村人口と農業開発調査

川野重任（東京大学名誉教授）

大内 穂（アジア経済研究所経済成長

調査部長）

	<p>一九八五・四 (二十四～二十六)</p>
<p>タイ人口と開発基礎調査・社会福祉関連調査</p> <p>黒田俊夫(日大人口研究所名誉所長) 山本幹夫(帝京大客員教授・総合保健研究所長)</p> <p>日本の人口転換と農村開発</p> <p>岡崎陽一(厚生省人口問題研究所長) 阿部 誠(厚生省人口問題研究所人口資質部長)</p> <p>日本の農業・農村開発と人口——その軌跡(スライド)</p> <p>第二日目(二月六日) セッションIII・IV 総括討論</p> <p>第三日目(二月七日) セッションV 閉会</p>	<p>「元大統領・首相会議第三回総会」 (於…パリ国際会議場)</p> <p>名誉議長…福田赳夫元首相 議長…ワルトハイム前国連事務総長 事務総長…ブラッドフォード・モースUNDP事務総長</p> <p>参加国…二十四ヶ国</p> <p>○それまでの、三つの主要課題に加え、人口問題が取り上げられることに決定。</p> <p>○第四回総会は、一九八五年四月、日本で開催される予定。</p>

<p>一九八六・三 (三・三・五)</p>	<p>「第二回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」 (於…東京・経団連国際会議場)</p> <p>主 催…財団法人・アジア人口・開発協会 (APDA) 出席者…○日本 福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、住 栄作、鹿野道彦、桜井新 (衆・自民) 安孫子藤吉、林寛子、石井一二一 (参・自民)</p> <p>水田稔、土井たか子 (衆・社会) 矢追秀彦 (衆・公明)</p> <p>高桑栄松、塩出啓典 (参・公明) 柄谷道一 (参・民社)</p> <p>○中国 何理良 ○インド S・P・ミッタール、D・C・ジャ イン</p>
<p>一九八五・五 (十三・十四日)</p>	<p>「第二回人口と開発に関するインド議員会議」 (於…ニューデリー国際会議場)</p> <p>参加者数…約四百名</p> <p>○日本からは、佐藤隆代議士 (人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長) が、開会式に來賓として出席、基調講演した。</p>
	<p>○佐藤隆代議士 (人口と開発に関する世界委員会常任理事) が、特別講演を行ない、OBサミットで人類の生存と平和を脅かす「人口問題」を取りあげるよう進言。その結果、主要課題の一つにすることを決定。人口問題に関するタスクフォースを組織し、主幹に福田赳夫元首相が就任することになった。</p>

- インドネシア・マルトノ移住大臣
- 韓国・ジャンスック・キム
- スリランカ・P・M・Bシリル県大臣
- タイ・ブンテイウム・カマピラド運輸通  
信副大臣

日程：第一日目（三月三日）

開会式（司会 林 寛子）

A P D A 理事長・田中龍夫挨拶

外務大臣・安倍晋太郎（浦野悠興外務政  
務次官代理）挨拶

国際人口問題議員懇談会会長・福田赳夫  
歓迎挨拶

人口と開発に関するアジア議員フォーラ  
ム事務総長・S・P・ミッター参加者  
代表挨拶

国連人口活動基金事務局長 R・サラス  
来賓挨拶

本会議・セッションI 住 栄作議員を議  
長に選出

セッションI-1・2 問題提起

中国人口家族計画基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

小林和正（日大人口研究所教授）

インド人口・開発基礎調査

嵯峨座晴夫（早稲田大学文学部教授）

タイ農村人口と農業開発調査

川野重任（東京大学名誉教授）

原 洋之介（東京大学東洋文化研究所  
助教授）

バンコクの人口都市化と生活環境・福祉  
調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

ネパール人口家族計画基礎調査

松本信雄（東京慈恵会医科大学教授）

大内 穂（アジア経済研究所経済成長

調査部長）

日本の人口都市化と開発

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

岡崎陽一（厚生省人口問題研究所長）

日本の都市化と人口（スライド）

セッションⅠ―3 討議

第二日目（三月四日）

セッションⅡ（議長 住栄作議員）

各国カントリーレポート及び討議

セッションⅢ（議長 佐藤 隆議員）

総括討議

閉会式

第三日目（三月五日）

都内視察

<p>一九八六・五 (五・十二)十六)</p>	<p>「人口と開発に関するアフリカ国会議員会議 開催地…ジンバブエ・ハラレ市 参加国…三十九ヶ国 主催…人口と開発に関する国会議員世界委員会 ジンバブエ議会 *「ハラレ宣言」採択 ○アフリカの議会制度を持つ国は三十六ヶ国、 この内三十一ヶ国と議会制度を持たぬ国八ヶ 国がオブザーバーとして参加したが、これは アフリカにおいて過去開催された議員会議の 中で最大規模のもの。</p>
<p>一九八六・九 (九・二十六)十二)</p>	<p>ネパール人口事情視察議員団派遣 参加議員(計十名) 福田赳夫(名誉団長)、田中龍夫(団長)、 佐藤 隆、桜井 新、金子みつ、矢追秀彦、 安倍基雄、扇 千景、石井一二、高桑栄松 ○ネパールに発足したての人口・開発議員連盟 等との会議も行なわれた。</p>
<p>一九八六・十 (十・六)七)</p>	<p>「人口と開発に関するアフリカ議員カウンシル」発足 会議 開催地…ケニヤ・ナイロビ市 参加国…アフリカ十三ヶ国、他五ヶ国、他九機関 ○同年五月十六日付ジンバブエにて採択された 「ハラレ宣言」に基づき、アフリカ地域におけ る各国の人口・開発議員グループ間での意見 交換等の活動を調整・促進、また「ハラレ宣 言」をフォロワーする等のため同カウンシルを 正式に発足したもの。 初代議長には、マダガスカルのジャン・ルイ・ ラマンドライアリソア氏が就任。</p>

一九八六・十  
(十・十七、十八)

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」  
(於・ジャカルタ)

参加国…日本、中国、スリランカ、インド、シリア、インドネシア、他八機関

議長…佐藤 隆(日本)

○第二回 A F P D 総会を一九八七年十月二十三日、北京にて開催することを正式に決定。

一九八七・二  
(二・二十三)

(二十四)

「第三回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於…バンコク・タイ国会議事堂 エスカップ会議場)

主催…財団法人アジア人口・開発協会(A P D A)

出席者…○日本…福田赳夫、佐藤隆(衆・自民)

林寛子、石井一二(参・自民)

伊藤忠治(衆・社会)

有島重武(衆・公明)

阿部昭吾(衆・社民連)

○中国…ヤン・レン・ヤン、何理良

○インド…S・P ミッタール、M・プラシ

ヤド

○インドネシア…マルトノ移住大臣

○韓国…K・J・ドンク

○マレーシア…R・オスマン運輸副大臣

○ネパール…D・S・ラナ、P・B・サポ

コタ

○シリア…H・サディック

○スリランカ…U・B・ウイジェクーン

(ジャフナ自治大臣)

○タイⅡプラソップ・R、M・L・トリド  
シュス、V・ピトウーン・O、ブ  
アングルト・W、ブーンスク・L

日 程…第一日目（二月二十三日）

開会式（於…タイ国会議事堂会議場）

開会の辞…ウクリット・M（タイ国国会

議長）

主催者挨拶…佐藤隆（APDA副理事長）

来賓挨拶Ⅱ J・S・シン（サラスUNF

PA事務局長・代理）

来賓挨拶Ⅱ 福田勉夫（国際人口問題議員

懇談会会長）

主催国挨拶Ⅱ プラソップ・R（タイ国人

口問題議員懇談会会長）

本会議…セツションI 問題提起・質疑

応答

（於…エスカップ・会議場）

議長…

インドネシア 人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

インドネシア 農村人口と農業開発調査

原 洋之介（東大東洋文化研究所助教

授）

タイ 村落レベルでの人口と開発

ミツチャイ・V（PCDP事務局長）

第二日目（二月二十四日）

セツションI-2 問題提起・質疑応答

（於…エスカップ会議場）



<p>一九八七・九 (九・二三～二五)</p>	
<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回大会」 期 日…九月二十三日～二十五日 開催地…中国・北京市 会 場…人民大会堂、崑崙ホテル国際会議場 参加者…二十九ヶ国、十六機関…約二百名 (1) 日本代表出席議員</p> <p>名誉団長…福田 赳 夫(衆・自民) 団 長…佐藤 隆(衆・〃) 谷 津 義 男(衆・〃) 林 寛 子(参・〃) 田 代 由紀男(参・〃) 石 井 一 二(参・〃)</p>	<p>現在及び将来の開発計画に関する年齢構造変動の政策的合意 ニボン・デババルヤ(エスカップ人口部部長) 日本の労働力人口と開発 黒田俊夫(日大人口研究所名誉所長) 日本の産業発展と人口(スライド・制作APDA) セッションII-1/2 各国カンントリーレポート発表および討議 総括討議 閉会式</p>

副団長・・井上 普方（衆・社会）

城地 豊司（衆・〃）

有島 重武（衆・公明）

矢追 秀彦（衆・〃）

高桑 栄松（参・〃）

三治 重信（参・民社）

阿部 昭吾（衆・社民）

（2）議 長・・佐藤 隆（日本）

副議長・・胡 克 實（中国）

〃・・P・ラタナクーン（タイ）

〃・・M・チョードウリー（バングラデシュ）

起草委員・・G・S・ヤジャン（インド）

ツアン・ツォングリー（中国）

矢追 秀彦（日本）

R・ラモス・シヤハニ（フィリピン）

B・グッドラック（オーストラリア）

（3）主なる日程

① 開会式

\* 趙紫陽・中国首相、他の挨拶

\* 福田赳夫・日本国元首相の基調講演

② セッション

① アジアの人口と開発

② アジアの保健サービス・家族計画

③ 都市化

④ アジアの人口と食糧

⑤ 人口高齢化

③ A F P P D 北京宣言採択

④ A F P P D 規約採択

⑤ A F P P D 役員改選（9ヶ国）

\* 議長には佐藤隆議員（日本）が再任された。

一九八七・九  
(九・二六～二九)

中国人口事情視察議員団派遣(山東省)

団長・有島重武(衆・公明)  
谷津義男(衆・自民)  
城地豊司(衆・社会)  
高桑栄松(参・公明)  
三治重信(参・民社)

他、随行者7名

\*中国・国家計画生育委員会との協力で、山東省にて実施されている家族計画プロジェクトを視察。

一九八八・二一～三  
(二一・二九～三・一)

「第四回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於・クアラルンプール・マレーシア国会議事堂  
パンパシフィックホテル・ボールルームB)

主催・財団法人アジア人口・開発協会(A.P.D.A)  
共催・マレーシア人口・資源・開発議員連盟

出席者・○日本||田中龍夫(衆・自)

林寛子、石井一二(参・自)

坂上富夫(衆・社)

有島重武(衆・公明)

三治重信(参・民社)

○オーストラリア||B・J・グッドラック

○中国||胡克実

○インド||J・R・グプタ

○韓国||K・J・ドンク

○ネパール||P・B・シャヒ

○ニュージーランド||S・デイビス

○シンガポール||S・サニフ

○スリランカ||R・アタパト

○シリアⅡG・タヤラ

○タイⅡブラソップ・R、チュムサイ・H

○マレーシアⅡA・H・A・バダウィ、P・

H・ラーマ・オスマン、A・

H・イブラヒム、Z・A・ジ

ン、M・ザカリア、I・M・

サイド、Z・M・ハッサン、

A・R・ベイカー、S・S・ス

ブラマニアム、M・T・イス

マエル、C・J・メン

日程：第一日目（二月二十九日）

開会式（於：マレーシア国会議事堂会議場）

主催者挨拶：田中龍夫（APDA理事長）

共催者挨拶：A・バダウィ（マレーシア

人口・資源・開発議員連盟

会長）

来賓挨拶：胡克実（AFPDP副議長）

来賓挨拶：J・S・シン（N・サディツ

クUNFPA事務局長・代理）

主催国挨拶：モハメッド・ザヒール（マ

レーシア国下院議長）

本会議：セッション I—1

問題提起・質疑応答

（於：パンパシフィックホテル・ホ

ールームB）

中国 — 人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉  
所長）

	<p>中国 ― 農村人口と農業開発調査 濱下武志（東京大学東洋文化研究所 助教授）</p> <p>マレーシア ― 都市化・人口移動・開 発</p> <p>K・サレイ（マレーシア経済研究所 所長）</p> <p>マレーシア ― 農業と農村開発</p> <p>K・カチャ（農業大学副総長）</p> <p>アジア諸国の人口と農業政策</p> <p>G・D・ネス（ミシガン大学教授）</p> <p>第二日目（三月一日）</p> <p>スライド“日本の人口移動と経済発展” （APDA制作）</p> <p>セッションII</p> <p>各国カントリーレポート発表および討 議</p> <p>総括討論</p> <p>閉会式</p>

『アジア人口30億人の日』（於…東京プリンスホテル）  
共催…人口と開発に関するアジア議員フォーラム、国

際人口問題議員懇談会、財団法人アジア人口・  
開発協会

主な出席者

（敬称略）

〔国會議員〕

福田 赳夫（衆・自民）	永野 茂門（参・自民）
田中 龍夫（衆・〃）	金子 みつ（衆・社会）
佐藤 隆（衆・〃）	有島 重武（衆・公明）
鹿野 道彦（衆・〃）	矢追 秀彦（衆・〃）
谷津 義男（衆・〃）	山田 英介（衆・〃）
石本 茂（参・〃）	高桑 栄松（参・〃）
扇 千景（参・〃）	中西 珠子（参・〃）
田代由紀男（参・〃）	三治 重信（参・民社）
石井 一二（参・〃）	阿部 昭吾（衆・社民）

〔来 賓〕

マレーシア国……ラーマ・オスマン上院議員  
 インド国……サット・ポール・ミッタール  
 前上院議員

国連人口基金（UNFPA）事務次長功刀 達郎  
 国際家族計画連盟（IPPF）東・東南アジア・  
 太平洋理事会会長  
 ジョアン・タンブ

〔国際機関〕

国連人口基金（UNFPA）広報渉外部長  
 ジョティ・シン  
 国連人口基金（UNFPA）企画調整局長  
 安藤 博文

国連開発計画（UNDP）東京連絡事務所所長

石樽 利光

〔在日大使館〕

オーストラリア大使館 A・T・カルバート代理大使

〔官 界〕

外務省 金子 義和 国際連合局社会協力課長

厚生省 河野 稠果 人口問題研究所所長

厚生省 内野 澄子 人口問題研究所人口構造部長

総務庁 三浦 由己 統計局長

環境庁 森 幸男 企画調整局長

長谷川慧重 大気保全局長

〔学識経験者〕

黒田 俊夫 日本大学人口研究所名誉所長

川野 重任 東京大学名誉教授

安川 正彬 慶応大学経済学部教授

大内 穂 アジア経済研究所総合研究部主幹

武田修三郎 東海大学工学部教授

畑井 義隆 明治学院大学経済学部教授

吉田 長雄 アジア生産性機構事務局長

日程

第一部（アナウンスメント）

「アジア人口30億人の日」

人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長

佐藤 隆

第二部（記念講演）

「30億人をとり囲む環境問題」（記念講演）

環境庁長官 堀内 俊夫

「アジアは30億人をどう支えるか」ミシガン大学教授

	<p style="text-align: right;">ゲイル・D・ネス</p> <p>第三部 記者会見</p> <p>第四部 レセプション</p>
<p>一九八八・ 十・十九～二十六</p>	<p>バングラデシュ人口事情視察議員団派遣</p> <p>団 長…中西 一郎（参・自民） 副団長…井上 普方（衆・社会） 田代由紀男（参・自民） 武村 正義（衆・自民） 平石磨作太郎（衆・公明） 大矢 卓史（衆・民社） （他随員四名）</p> <p>○パンチドナにおける家族計画プロジェクト視察、人口・開発関係議員との合同会議等を行った。</p>
<p>一九八八・ 十一・二十八</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」（於東京）</p> <p>参加国…オーストラリア、中国、インド、日本、マレーシア、シリア、タイ、他二機関。</p> <p>議長…佐藤 隆（日本）</p> <p>○アジア人口30億人の日の行事の成果、今後の活動計画について。</p>



## 本協会実施調査報告書及び出版物

### 昭和58年度

1. 中華人民共和国人口家族計画基礎調査報告書  
Basic Survey on Population and Family Planning  
in the People's Republic of China (英語版)  
生育率和生活水平关系中日合作調查研究报告書  
(中国語版)

### 昭和59年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
—インド国—  
Report on the Survey of Rural Population and  
Agricultural Development in Asian Countries  
—India— (英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
—タイ国—  
Report on the Basic Survey of Population and Deve-  
lopment in Southeast Asian Countries  
—Thailand—

3. 日本の人口転換と農村開発

Demographic Transition in Japan and Rural Deve-  
lopment (英語版)

4. Survey of Fertility and Living Standards in Chinese  
Rural Areas —Data— All the households of two  
villages in Jilin Province surveyed by questionnaires  
(英語版)

关于中国农村的人口生育率与生活水平的调查报告  
— 对于吉林省两个村进行全戸面談調查的結果 —  
—統計編— (中国語版)

5. スライド 日本の農業、農村開発と人口  
— その軌跡 — (日本語版)

Agricultural & Rural Development and, Population  
in Japan (英語版)

日本农业农村的发展和人口的推移 (中国語版)

Perkembangan Pertanian, Masyarakat Desa Dan  
Kependudukan Di Jepang (インドネシア語版)

(以上4カ国版スライドは、日本産業教育スライドコ  
ンクールにて優秀賞を受賞しました。)

## 昭和60年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
—タイ国—  
Report on the Survey of Rural Population and  
Agricultural Development in Asian Countries  
—Thailand— (英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
—インド国—  
Report on the Basic Survey of Population and  
Development in Southeast Asian Countries  
—India—
3. 中華人民共和国人口・家族計画第二次基礎調査報告書  
Basic Survey (II) on Population and Family Planning  
in the People's Republic of China  
生育率和生活水平关系第二次中日合作調査研究報  
告書 (中国語版)
4. ネパール王国人口・家族計画基礎調査  
Basic Survey Report on Population and Family  
Planning in the Kingdom of Nepal (英語版)

5. 日本の人口都市化と開発  
Urbanization and Development in Japan (英語版)
6. バンコクの人口都市化と生活環境・福祉調査  
—データ編—  
Survey of Urbanization, Living Environment and  
Welfare in Bangkok —Data—  
(英語版)
7. スライド  
日本の都市化と人口 (日本語版)  
Urbanization and Population in Japan (英語版)  
日本的城市化与人口 (中国語版)  
Urbanisasi Dan penduduk Di Jepang  
(インドネシア語版)

## 昭和61年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
—インドネシア国—  
Report on the Survey of Rural Population and  
Agricultural Development in Asian Countries  
—Indonesia— (英語版)

2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
——インドネシア国——  
Report on the Basic Survey of Population and  
Development in Southeast Asian Countries  
——Indonesia——（英語版）
3. 在日留学生の学習と生活条件に関する研究  
—— 人的能力開発の課題に即して ——
4. 日本の労働力人口と開発  
Labor Force and Development in Japan（英語版）
5. 人口と開発関連統計集  
Demographic and Socio-Economic Indicators on  
Population and Development（英語版）
6. スライド 日本の産業開発と人口  
——その原動力・電気——（日本語版）  
Industrial Development and Population in Japan  
——The Prime Mover-Electricity——（英語版）  
日本の产业发展与人口  
——其原动力—曳气——（中国語版）  
Pembangunan Industri dan pendudukandi Jepang  
——Penggerak Utama-Tenga Listrik——  
（インドネシア語版）

7. ネパール王国人口家族計画第二次基礎調査  
Complementary Basic Survey Report on Population  
and Family Planning in the kingdom of Nepal

### 昭和62年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書  
——中華人民共和国——  
Report on the Survey of Rural Population and  
Agricultural Development in Asian Countries  
——China——（英語版）
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書  
——中華人民共和国——  
Report on the Basic Survey of Population and  
Development in Southeast Asian Countris  
——China——（英語版）
3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究  
——フィリピン国——
4. 日本の人口と農業開発  
Population and Agricultural Development in Japan  
（英語版）

5. ネパールの人口・開発・環境

Population, Development and Environment in Nepal  
(英語版)

6. スライド

日本の人口移動と経済発展 (日本語版)

The Migratory Movement and Economic Development in Japan (英語版)

日本の人口移動与经济发展 (中国語版)

Perpindahan Penduduk Dan Perkembangan Ekonomi Di Jepang (インドネシア語版)

7. トルコ国人口家族計画基礎調査

昭和63年12月31日発行（季刊）

「アジア 人口と開発」 №27

発行者 田中 龍夫

発行所 財団法人 アジア 人口・開発協会

〒100 千代田区永田町2-10-2

永田町TBRビル710号

TEL 03(581)7770(代表)